



子育て通信

5 カナリヤ

発行 第366号 2026. 5. 1.

時津町子育て支援センター『こばとの家』
長崎県西彼杵郡時津町西時津郷 1000-10

支援センター TEL095-882-7455

こども園 TEL095-882-4559

FAX095-882-4901

ホームページ

<https://www.togitsukobato.jp>

～満開の桜の下で遊んだね～



～おままごと遊び楽しいね～



『お母さんに伝えたい言葉』

こばとこども園
園長 嘉村 望

おかあさんの おかげだよ
「あいする」ってことがわかるのは

やさしくしたら
どんなきもちになれるか
わかったよ



おもいやりが あれば それだけで あたたかい
そう おしえてくれた

おかあさんの おかげだよ
かわいがられて みまもられ
たいせつにされているのを かんじられる

いきていると
おもいどおりに いかないこともある
でも きっと のりこえていける
そういう きもちを おかあさんが くれた

いっしょに いてほしいとき
おかあさんは いつも そばにいてくれた

おかあさんの おかげだよ
じぶんは じぶんだって おもえるよ

絵本：「おかあさんのおかげだよ」
文：コビ・ヤマダ

5月は母の日があります。お母さんは、子どもや家族のために日々家事と育児に奮闘しています。しんどいな、きつと思うこともあると思います。

小さな子どもたちは、うまく感謝の気持ちを伝えることは難しいかもしれません。

しかし、子どもたちはお母さんの背中を見ています。

温かく包んでくれていることを肌で感じ、励ましてくれた言葉の数々も心の中にたいせつに詰め込んでいます。お母さんの愛情は、子どもたちに伝わっています。

子どもたちが成長して、自分の気持ちを自分の言葉で伝えることができるようになったときに素敵な感謝の言葉を聞くことができるでしょう。

5月子育てワンポイント

『手づかみ食べの大切さ』

「手づかみ食べ」は食べ物を目で確かめて、手を伸ばし、自分の口に入れて食べるという目と手の協応動作のことです。これは摂食機能の発達の上で重要な役割があります。摂食機能の発達過程では、手づかみ食べが上達し、目と手と口の協応ができていくことによって、食器や食具が上手に使えるようになっていきます。

また、この時期から「自分でやりたい」という欲求が出てくるので、「自分で食べる」機能の発達を促す観点からも「手づかみ食べ」が大切です。離乳後期（9か月頃から）になると、手のひらや手指でさまざまな食べ物を触るようになり、形や感触を覚えていきます。これが食べ物への関心につながり、そして自分の意志で食べようとする行動につながります。

1歳になると手づかみ食べをするようになります。最初は手に持った食べ物を口が迎えに行くような動きが見られますが、やがて顔が正面を向いたまま食べ物を手づかみで口の中に入れられるようになります。1歳前後の**子どもの発育と発達にとって積極的にさせたい行動**です。



手づかみ食べが始まると、食べ物をぐちゃぐちゃにするだけで食べなかったり、お皿をひっくり返したり、食事に時間がかかるなど大変なこともあります。が、「どうしたら自分で食べられるようになるのか」を研究している大切な時間です。好奇心を持ち出したら、おおらかな気持ちで進めさせてあげましょう。

中にはべちゃべちゃするのが嫌な赤ちゃんや、つかまない子がありますが、個性であり、個人差があります。無理強いしないよう自分から手づかみ食べをするまでは待つようにしましょう。大人が子どもの前でつかみ食べをして見せるのも良い方法です。

手づかみのポイント

- ①手づかみ食べが始まったころは、ひと口量が分からず、全部を詰め込んでしまうことが多いです。保護者が、ひと口量が分かるように介助をしましょう。
- ②ごはんをおにぎりにしたり、野菜類の切り方を大きめにするなどメニューを工夫しましょう。

親子クッキング

4月11日(土)に親子クッキングを開催しました。今回は、『春のお弁当』を作りました。そぼろと炒り卵を混ぜたり、アスパラをベーコンで巻いたり、おにぎりをにぎったりして、色とりどりのお弁当ができました。お部屋の中は、楽しい笑い声でいっぱいでした。

お外で遊んだ後に、みんなで美味しいお弁当をいただきました。



春のフォトブース

4月20日(月)・21日(火)に、長与のフォトスタジオ SOUSOU さんに春のフォトブースを設置していただき、撮影会を開催しました。可愛らしい素敵な写真が撮れましたよ♡

～ふれあい遊び～

～手形アートの製作～



～春のフォトブースで写真撮影～

